

トーアメック株式会社

エコアクション21

環境活動レポート

(2016年 1月～2016年 12月)

発行： 2017年3月1日

[1] 事業活動の概要

事業者名	トーアメック株式会社		
代表者	代表取締役社長 高 橋 寛		
所在地	東京都港区芝4-2-3		
事業の規模	資本金	5,720万円	
	従業員数	86名(平成28年12月31日現在)	
	設立	昭和26年9月	
	事業年度	4月1日～3月31日	

全事業所

・本社	港区芝4-2-3	
・鈴鹿営業所	鈴鹿市国府町石丸7651-9	
・浜松営業所	浜松市中区高丘西3-57-1	
・富山営業所	富山市萩原413-1	
・沼津営業所	沼津市若葉町12-16	
・相模営業所	海老名市中央3-2-20	
・狭山営業所	狭山市下奥富472	
・川越倉庫	川越市南大塚2-2-11	
・宇都宮営業所	宇都宮市御幸ヶ原151-14	
・和光物流センター	和光市新倉7-12-20	
・金沢営業所	野々市市御経塚1-520	(平成28年4月開設)
・福岡サテライト	福岡市中央区舞鶴1-3-14	(平成28年6月開設)

事業内容	機械部材、電機部材、電子部材等生産財、試験機、農業用機器の販売		
	環境管理責任者	管理部総務経理課	小寺 布美子
連絡先	TEL: 03-6834-2600		

関連会社

トーアエクスプレス株式会社

代表者 代表取締役社長 田村 吾希也
所在地 埼玉県狭山市大字下奥富字坂上472
事業の規模 資本金 1,000万円
従業員数 19名(平成29年1月31日現在)
設立 昭和48年11月
事業年度 2月1日～1月31日

全事業所 本社 埼玉県狭山市下奥富472
川越 トーアメック(株)川越倉庫内
和光 トーアメック(株)和光物流センター内
浜松 トーアメック(株)浜松営業所内
鈴鹿 トーアメック(株)鈴鹿営業所内

事業内容 トーアメック株式会社の取扱商品の納入および商品管理業務

[2] 対象範囲

トーアメック株式会社およびトーアエクスプレス株式会社 全事業所

[3]

環 境 方 針

[基本理念]

トーアメック株式会社は、工業用生産財、試験機等の販売活動、及び納入代行業務を通じて、地球環境を守るために、環境に配慮した製品の提供に努め、自主的かつ積極的に環境保全活動に取り組みます。

[基本方針]

1. 環境保全に関連する法令・規則を遵守し、環境保全レベルの向上に努めます。
2. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に取り組みます。
 - ① 省エネルギーの推進
 - ② 資源の有効利用
 - ③ 廃棄物削減とリサイクル
 - ④ 環境にやさしい製品の販売と情報の提供
3. 環境方針を全社員に周知するとともに社外にも公表します。

2008年5月1日 制定

2009年9月1日 更新

トーアメック株式会社
代表取締役社長
高 橋 寛

〔4〕 環境目標（全社3ヵ年：2015年～2017年）

2015年より新3ヵ年目標は63期～64期目標平均を目標基準年度として、各年度は基準年度の1.5%を削減目標とする計画を作成します。

項目		6364期目標基準年度	2015年	2016年	2017年
		H25.4～H27.3	H27.1～H27.12	H28.1～H28.12	H29.1～H29.12
燃料（ガソリン等）	年間使用量（L）	78,700	77,510	76,340	75,190
電力	年間使用量 （kWh）	279,520	275,320	271,190	267,120
水	年間使用量（m ³ ）	784	772	760	748
廃棄物	年間排出量（kg）	*26,700	26,290	25,890	25,500
コピー用紙	年間購入量（千枚）	575	566	557	548
グリーン購入品	事務消耗品	購入量増加へ	継続活動		
環境配慮型商品	省エネ照明	倉庫、工場へ販売	継続活動		

*廃棄物の目標は2014年度大幅未達のため基準年度を前回と同様と致しました。

*2015年度より実績集計期間を1月～12月へ変更しております。

〔5〕 環境活動計画及び取組

① 燃料使用量の削減について

- ・商品配送および営業活動に伴う燃料使用量の削減
使用する車輛を低燃費車／エコカーの導入などで使用燃料を低減します。
倉庫よりの配達・発送方法の再検討（集中配送等で配達・発送回数の削減）

② 電力使用量の削減について

- ・設定温度の管理と冷えすぎ、暖めすぎへの注意喚起・室内温度計の設置での管理およびこまめな巡回による設定機器の管理（設定温度：冷房26℃ 暖房25℃）
- ・退社時の消灯、冷暖房OFFの確認
- ・クールビズを1ヶ月前倒しスタート（継続5月～10月まで実施）

- ③ 水 節水の呼びかけ（継続）
- ④ 廃棄物の削減（継続）
 - ・一般ごみ : 分別回収／リサイクルの推進
 - ・産業廃棄物 : 廃棄物の適正処理（マニフェストの管理）
- ⑤ コピー用紙の削減（継続）
 - ・両面、縮小コピーの活用
 - ・裏紙の使用
 - ・営業会議資料の配布中止
- ⑥ 事務消耗品 グリーン購入品の購入増加を行う（2016年実績58.6%）
- ⑦ 環境配慮型商品の販売 LED照明、工場・倉庫・公園等の照明（水銀灯の代替）の
販売を行う、高効率モーターの販売

〔6〕 環境活動取組結果の評価 2016年度（H28.1～H28.12の活動結果）
及び次年度へ取組内容

項目	単位	基準年度値	目標削減率	2016目標値	2016実績	目標達成評価
燃料(ガソリン等)	年間使用量(L)	78,700	▲3.0%	76,340	64,402	○
電力	年間使用量(kWh)	279,520	▲3.0%	271,190	266,159	○
水	年間使用量(m ³)	784	▲3.0%	760	693	○
廃棄物	年間排出量(kg)	26,700	▲3.0%	25,890	20,465	○
コピー用紙	年間購入量(千枚)	575	▲3.0%	557	578	×
グリーン購入品	事務消耗品	購入品目増加へ	2016年度購入品の約58.6%			
環境配慮型商品	省エネ照明	倉庫、公園用照明の販売	公園照明用：16セット1月販売 同用3種類9セット受注（h29・2納入予定）			

上記の実績から、二酸化炭素の年間排出量は292,491Kg-CO₂でした。

注意：*廃棄物の目標は2014年度に大幅な未達であったため、前回基準と同じとしています。

*2015年以降は基準年度を63・64期平均目標値としました（廃棄物は除く）。

*購入電力の排出係数を平成26年度の係数にして排出量の目標値を訂正（東京電力=0.496）

*グリーン購入及び環境配慮型商品の拡販についての数値目標は設定出来ず、その購入活動及び販売活動としました。

購入電力の2016年度排出係数と排出量

電気事業者	年間使用量(kWh)	排出係数	
		Kg-CO ₂ /kWh	Kg-CO ₂
東京電力	187,712	0.496	93,105
中部電力	65,750	0.494	32,480
北陸電力	11,917	0.640	7,627
九州電力	780	0.528	412
計	266,159		133,624

[7] 環境活動結果の評価と次年度の取組

2016年の全社実績および各事業所の目標は、灯油・コピー用紙削減以外は達成できた。

また、新たな2拠点（金沢・福岡）が増えたが電力等への増加もなく達成できた点は評価できると思う。ガソリン等の消費は、全社使用台数が2台減ったこと及び、配送ルートが8月より一部無くなったことが大きく使用量に影響している。

2017年度は前年度と同じく物流および倉庫管理をより効率よく運用し無駄の無いようにしていくことを継続予定。

また、2017年度は前年度の各種取組を継続し、変更無く2年目の目標値を行う予定。

和光物流センター内の水銀照明をLED化と、浜松営業所の移転を検討する予定。

① 燃料（ガソリン等）の削減

- ・エコドライブの実施：急発進、急停車の注意と定期車両整備点検の強化
- ・ハイブリッド車への入替：8台中6台を実施。他2台はガソリン車とディーゼル車

*2017年度取組：エコドライブの実施継続及びハイブリッド車への切替を継続

② 電力の使用量の削減（各事務所・各部屋）

- ・退社時のエアコン消し忘れ強化（本社）。
- ・和光物流センターではH29.2照明をLED化計画中
- ・夏のクールビズを1ヶ月早めて5月より10月まで継続実施。

*2017年度取組：本社の節電検討、5月よりクールビズ実施

③ 水の削減

- ・節水の呼びかけ

*2017年度の使用量は現状維持

④ 廃棄物の削減

*2017年度取組：62期より継続ですが目標を廃棄物のリサイクルの促進とします。

⑤ コピー用紙の削減

*2016年は目標値未達のため再度下記を強化

- ・両面、縮小コピーの活用・裏紙の使用ー 継続実行中
- ・ 営業会議資料の印刷配布を中止

*2017年度取組：62期より継続

⑥ グリーン購入に関しては商品単価により一部商品は購入出来ずに終わった。

*2017年度取組：62期より継続

⑦ 環境配慮型商品の販売実績

- ・省エネ照明・(公園照明用)：16セット販売 (2018年2月で3種類9セット受注)
- ・高効率モーターの拡販実施

*2017年度取組：62期より継続して拡販

[8] 環境関連法への違反、訴訟等の有無

- ・適用される主な環境関連法規について、遵守状況は特に問題はありませんでした。
- ・過去3年間において環境関連の違反、訴訟等ありませんでした。

[9] 代表者による全体評価と見直しの結果

- ・2016年度は前年度より微増であったが、ほぼ二酸化炭素の目標排出量となった。2017年度も前期と同様に継続して排出量の削減に取り組んで行く方針です。また、グリーン商品(事務消耗品関連)の購入割合を6割強にしたい。前期と同様仕入先とも協力しより効率よく、無駄の無いよう今後とも取り組んでいきます。